

## 掘り出された吉田の歴史

吉田地域には、田川・奈良井川の河川沿いに9か所の遺跡があります。圃場整備や高速道の建設などに伴い吉田向井・吉田川西・長者屋敷の3遺跡で発掘調査が行われ、吉田若宮では工事中に遺物が見つかっています。

**ムラの始まり** 初めて吉田に人が住み着いたのは5000年前の縄文時代中期のことです。吉田向井遺跡から竪穴住居が2軒発見され、小さなムラを作って生活していたことがわかります。ここからは華麗な文様で飾られた縄文土器がたくさん出土し、縄文人たちの造形力のすごさを見せつけています。



縄文土器(吉田向井遺跡)

**地域開発の中心地—吉田川西遺跡—** 弥生時代から古墳時代にかけては吉田向井遺跡にわずかな痕跡を残す程度ですが、奈良・平安時代にいたって吉田地域は大開発の時期を迎えます。



128号墓の副葬品

その中心となったムラが吉田川西遺跡です。吉田川西遺跡は長野道建設にともなって発掘され、266軒もの竪穴住居や2基の墓など、この地域の開発に指導的な役割を果たした人物に関係する数々の遺構・遺物が見つかっています。中でも128号墓の副葬品は、目を見張らせる素晴らしさで、国の重要文化財に指定されています。

これら多くの遺構や遺物は、吉田川西遺跡が田川流域を範囲とする良田郷の中心的なムラであったことをよく示しています。

**平安のムラ—吉田向井遺跡—** 圃場整備・長野道に関連して発掘調査され、103軒の竪穴住居と3軒の掘立柱建物が発見された吉田向井遺跡は、平安時代の一般的なムラの姿をよくとどめています。9世紀末には13軒の竪穴住居があり、掘立柱建物のある中央の広場(ニワ)を取り囲んで配列しています。住居の重複や配列状況から見ると一時期には6~7軒程度のムラだったようです。ここには30人前後が暮らしていたと考えられます。

**仏教遺物の出土** 吉田川西遺跡から土器に墨で「西寺」「文□寺」という文字を書いた墨書土器が出土しています。ムラの中に寺があったのでしょうか。このほかに仏教にかかわる遺物には、長者屋敷遺跡から梵鐘の鋳型が、伝長谷寺とされる場所から鉄製護摩炉が出土しています。護摩炉は息災や悪を調伏するために護摩を焚く火炉で造形的にもすぐれたものです。

これらの遺物は平安時代以降にこの吉田地域にも仏教を信仰する人々がいたことをよく示しています。

**吉田は埋蔵銭の宝庫** 昭和35年、長者屋敷の南側で開田工事中に直径30㍉の木の樽に入った5万枚もの銭が発見されました。昭和56年には吉田若宮の宅地造成中に甕と桶に入った74,740枚もの銭が、平成3年には同じ吉田若宮で下水道工事中に5,820枚の銭が出土しました。いずれも宋銭を主体とする中国・朝鮮・ベトナムで製造された貨幣で、日本のものは和同開珎などたった2枚だけでした。鎌倉時代から室町時代の14世紀に埋められたようです。後で掘り起こして使うために隠したという説、土地の神様にささげたという説などがありますが、はっきりしたことは分かっていません。



埋蔵銭の出土状態と収納されていた甕(吉田若宮遺跡)

吉田地域を含めた松本平の南部ではこうした大量の埋蔵銭がしばしば発見される全国的にも特異な場所だと言われています。

吉田地域の遺跡は市内の他地域に比較し、決して多いとは言えませんが、そこで発見された建物跡や遺物類は私たちの地域の歴史を語るうえで多くの材料を提供してくれています。

日本考古学協会員 小林康男

### 館報編集委員

事務局長	委員	副委員長	委員長
小澤真由美	上嶋進二	青木順	手塚孝由
		赤津治哉	宮島百合子
			太田嘉幸
			卷山哲雄

新年度に入り「新型コロナウイルス」が蔓延し公民館活動も中止、縮小となる中「吉田地区文化祭」、「よしだ体育の日」をはじめ「学びのカフェ」、「健康講座」等感染防止対策を徹底し、役員の方々の努力と区民の皆様のご理解とご協力により無事に一年間活動できましたことに感謝申し上げます。

また、こうした状況が続くことが予想されますが、吉田公民館では「新しい生活様式」に対応した活動を企画・運営して参りますので、よろしく願っています。



世帯数と人口		令和3年2月1日現在		
区	世帯数	男	女	計
一区	534	618	609	1,227
二区	541	577	606	1,183
三区	950	1,022	1,029	2,051
四区	906	1,088	1,009	2,097
五区	1,143	1,362	1,398	2,760
計	4,074	4,667	4,651	9,318
市全体	28,081	33,260	33,430	66,690

(資料:市役所市民課)